

悔い改めと嘆願

2026年7月26日

ホセア書 5・15～6・3
マタイの福音書 23・37～39
ゼカリヤ書 12・10、13章（罪のきよめ）
イザヤ書 64章、詩篇 79～80篇：主の再臨を嘆願

序：ハルマゲドンの戦いは八段階で行われる

- ①反キリストと同盟軍がハルマゲドン（イスレエル平原）に召集
- ②バビロンの崩壊・滅亡（反キリストの支配する統一国家、首都）
- ③エルサレムの崩壊
- ④ボツラにいるイスラエル人を反キリストとその軍隊が攻撃
- ★⑤イスラエルの国家的回心（悔い改めとメシアへの信仰、嘆願）
- ⑥キリストの地上再臨
- ⑦ボツラ～ヨシャパテの谷（エルサレム）までの戦い
- ⑧勝利の主、オリーブ山に立つ

I. キリストの地上再臨の目的と前提条件

(1)目的：イスラエルの残りの民の救い
 $\frac{1}{3}$ ゼリヤ 13・8～9

(2)前提条件

- ①イスラエル人の国家的・民族的罪の告白
- ②イスラエルのメシア再臨を嘆願する祈り

II. イスラエルの国家的・民族的罪の告白

- ①イエスが救い主であることを認めない、イエスを拒否した
一度人となってこの世に生まれ、罪人の贖いを成し遂げてくださった
その後、天に昇られ、父の右の座に着いて、今も生きておられる
そのメシアは、今度は審判者として再びこの世に来て、公平なさばきをされる
- ②この罪が公に告白されない限り、イエス・キリストの再臨はない
ホセア 5・15
- ③イスラエルによる国家的罪の告白の必要二例
レビ 26・39～42（土地の約束が成就する前）
エレミヤ 3・12～18（千年王国の祝福にあずかる前）

III. イスラエルの嘆願

(1)ゼカリヤ 12・10

イスラエルは、自分が突き刺した者を仰ぎ見て、激しく嘆き、泣く
ひとり子、長子を失って泣くかのように

(2)マタイ 23・37～39

神はイスラエルに預言者、使者を送ったが、イスラエルは拒んで殺した
神はイスラエルを集めようとしたが、彼らはそれを退けた
神はイスラエルの家を荒廃した状態に放置する
イスラエルが「祝福あれ、主の御名によって来られる方に」と言う時が来るまで
イエスは彼らのところに来られない

(3)ホセア 6・1～3

イスラエルの指導者たちは、イエスが救い主であることを認めず、信じなかった
ことこそが、さばきの原因だと悟り、民を導く
イエスはメシアであることを信じ、受け入れるように、布告する
ハルマゲドンの戦いの最後の3日間（その後すぐ主の地上再臨）が始まる
最初の2日間で、国家的・民族的な背信の罪を告白（新生・回心）
3日目にイスラエルは救われる
新生したイスラエルは、メシアの再臨を懇願する
（主はその願いに応じて、再臨される）

Ⅳ. イスラエルの救い

(1)1日で救われる イザヤ 66・8 ゼカリヤ 3・9

(2)イスラエルはみな救われる ローマ 11・26

(3)新生、回心したイスラエルは、主に「来てください」と再臨を懇願する
イザヤ 64章 詩篇 79篇、80篇 (80・3,7,19)

Ⅴ. 結び

- (1)主イエス・キリストは、イスラエル人が彼らの罪を悔い改めて告白しないかぎり、
戻って来られない
- (2)イスラエルの罪とは、イエスがメシアであることを国家的・民族的に拒否したこと
である
- (3)新生・回心したので、イスラエルは主に再臨を懇願できた
- (4)ユダヤ人の指導者たちが、自分たちイスラエルが長年犯してきた罪を悔い改めて
主に立ち帰ろう、と布告した 場所は避難していたボツラ（ペトラ）
- (5)新生（回心）した者は神との関係を回復したので、嘆願して祈ることができる
キリスト信者こそ、真の神に畏れと親しみをもって ”
- (6)主は罪を悔い改めて、イエスを主と信じ告白した者の嘆願・祈りを聞いて応えてく
ださる